

一般財団法人日本エスペラント協会 (JEI)

2024年度事業報告

I 事業概況

0 基本方針・重点課題と成果

0.1 國際語エスペラントの普及発展をめざす本会は、3年余のコロナ禍という大きな試練を経て、従来の事業のあり方を大きく見直し、改革を進めてきた。会員への継続依頼の働きかけを強め、「ジュニア会員」の創設など、若年層への働きかけも強化した。

0.2 エスペラント会館（1978年建設）の将来を考えるために立ち上げた「エスペラント会館検討委員会」（2021年に発足）の諮問を受け、次世代へ継承できるような会館の建て替えを目指す方向を決定し、そのための「エスペラント会館基金」寄付募集を推進した。

0.3 会員間の交流、各部や各委員会が活性化するよう、オンライン・アプリなども積極活用し、各部が横断的に協力し合えるよう努め、新委員や部員の獲得にも努めた。

0.4 次世代にエスペラントの存在意義、価値、魅力を伝えていくよう、SNSを効果的に活用し広報活動に力を入れ、外部団体との連携にも努めた。

0.5 広報や国際交流、教育活動として、オンライン・イベント（講演会、セミナー等）の回数を増やし、地方会のイベントも積極的に支援した。

0.6 少数言語をはじめ多様な言語の尊重が重要視される今、「橋渡し言語」としてのエスペラントの意義を再確認し、エスペラント界外の組織・個人との協働も視野に入れた活動を推進した。一例としてJACTFL（日本外国語教育推進機構）の賛助会員として、エスペラントの意義を伝える機会も増えた。

1 エスペラント普及事業（担当：普及推進部）

1.1 基本方針と成果

1.1.1 国内外のエスペラント団体と連携し、エスペラントの存在意義、魅力を共有し、さらに広報し、エスペラントを普及する活動を行なった。

1.1.2 当会会員との連携を強化し、エスペラント関係者やその他の個人、団体とも協働の輪を広げ運動の発展を図った。

1.1.3 各部との横断的な協力によって、エスペラント広報事業の活性化に努めた。

1.2 エスペラント普及推進事業

1.2.1 国内のエスペラント運動の現状を把握し活性化を図った。

- a) 『エスペラント運動年鑑2023』をオンラインにて公開（会員限定）し、各エスペラント団体およびエスランティスト間の情報共有を促進した。
- b) 『エスペラント運動年鑑2024』に関する情報収集の準備を進めている。
- c) 2024年5月3日 オンライン講演会（講師エミーニョ）を実施した。

1.2.2 各種エスペラント団体と協働し、エスペラント団体の活性化に寄与できるよう努めた。

- a) 地方エスペラント連盟の大会などに理事・協議員が出席し、各地のエスペラント運動について意見交換を行なった。
- b) 「エスペラント運動年鑑」や「エスペラント会懇談会」の連絡網（メリングリストなど）により、情報の共有、経験交流を図り、エスペラント団体間の情報共有を促進すべく検討を行なった。
- c) 韓国で開かれた第3回日韓共同開催エスペラント大会には、二国間で協働し、国内のエスランティストに積極的な参加を促した。
- d) 広報冊子『通いあう地球のことば国際語エスペラント』を2025年3月まで団体会員に割引価格で提供し、地方の運動の活性化を支援した。

1.2.3 会員の拡大・定着に努め、青年層への働きかけを強化した。

- a) 引き続き会員の拡大、定着のための方策を検討し、その一環としてジュニア会員を新設した。
- b) 青年層にエスペラント活動の場を提供する団体に対する青年エスペラント企画支援金の活用促進は十分ではなく、青年エスペラント企画支援金の申請はなかった。

c) 第43回東アジア青年セミナー（KS 2025）実行委員会を支援するなど、青年エスペラント活動の活性化を促した。

1.2.4 エスペラント運動に功績があった個人・団体に「小坂賞」を授与し、内外にその功績を広めた。（山口眞一氏）

1.3 エスペラント広報事業

1.3.1 本会ウェブサイトにおいて、エスペラントに関する広範な情報を、一般向けにわかりやすく提供できるよう内容の充実を図った。

1.3.2 インターネットに関しては、本会ウェブサイト以外にもSNS、動画サイト等を活用し、より広い層への広報活動をおこなった。

1.3.3 外部向けのニュースリリース『エスペラントの今』を2024年12月（30号）「109回目の世界エスペラント大会～2024年は初めてのアフリカ開催～」を発行。また、広報チラシ『世界がグッと近づくやさしいことばエスペラント』を更新・増刷した。

1.3.4 エスペラント界外の団体等との接触の機会を逃さず、先方行事や先方企画への参加参画により、交流・相互協力・協働をおこなった（JACTFL広告、エンタメや出版の関係者との協力等）。

1.3.5 韓国で開催された第3回日韓共同開催エスペラント大会を機会とした広報活動は十分にはおこなえなかった。

1.3.6 「エスペラントの日」（『第一書』の発表された7月26日、日本でのエスペラント全国運動の6月12日）を機会とした広報活動として、「エスペラントはアフリカの何を文学するのか？」と題してオンラインでの公開講演会（講師瀬下政也）を開催した。

1.3.7 世界エスペラント協会（UEA）とも協力し、広報活動を行なった（国際母語の日、エスペラントの日、国際平和デー、ユネスコとエスペラント：言語的権利のための70年間の共同活動）。

2 エスペラントを用いた国際交流事業（担当：国際部）

2.1 基本方針と成果

2.1.1 日本のエスペラントが行うエスペラントによる具体的な国際交流事業はなかった。

2.1.2 外国のエスペラントへの日本国内のエスペラントによる国際交流事業への参加呼びかけは不十分だった。

2.1.3 エスペラントによる国際交流事業を、特に世界エスペラント協会（UEA）の日本における国別代表組織として推進し、UEAのアジア・オセアニア委員会（KAOEM）、日本のUEA委員、UEA-delegitoなどと協働した。

2.2 国際交流事業

2.2.1 第11回アジア-オセアニアエスペラント大会は第112回日本エスペラント大会との合同大会として2025年9月20～22日に岡山市の岡山国際交流センターで開催することとなり、大会組織部と協働準備を進めた。

2.2.2 世界への情報発信が積極的に行える体制の整備には至らなかった。

2.2.3 第3回日韓共同開催エスペラント大会（韓国全北特別自治道全州市）では韓国エスペラント協会が主催する Azia Karavano のプログラムが行われたので、JEIによる「アジア活動分科会」は開催しなかった。アジアで活動する青年としてインドネシアから Dea Editha を同大会に招待した。

2.2.4 国内外のエスペラントによる国際交流行事への参加・協力を呼びかけた。特に青年層に「青年エスペラント国際行動支援金」制度の活用を呼びかけ、第109回世界エスペラント大会（タンザニアのアリューシャ）に参加の2名、第42回東アジア青年エスペラントセミナー（韓国）と台湾ザメンホフ祭等に参加の1名、第81回国際青年エスペラント大会（インドネシアのチサルア）に参加予定の1名に供与した。第109回世界エスペラント大会（タンザニアのアリューシャ）には日本から30人が参加登録した。Movada Foiro に出展した。UEA委員会に代理出席（南波理事）を支援した。

2.2.5 国際文通サービスを継続し、9件を仲介した。

2.2.6 KAOEMの機関紙Esperanto en Azio kaj Oceanio（不定期刊）は発行されなかつた。

3 エスペラント研究教育事業（担当：研究教育部）

3.1 基本方針と成果

3.1.0 各種事業で継続してインターネットの活用を進めた。また、外国語教育や国際交流活動におけるエスペラントの有用性をさまざまな機会をとらえ社会に提示していくよう試みた。

3.1.1 教育部門は、オンライン会議システムを用いて、オンラインセミナーを開催して地域を問わずエスペラント学習者の語学力向上の支援に努めた。

3.1.2 八ヶ岳エスペラント館については感染症への配慮を怠らずに本会の研修施設として活用を行なった。

3.2 研究教育事業

3.2.1 エスペラントのオンラインでの学習 や学習支援を充実させていくために下記の2つのコンテンツを活用し、エスペラントに興味を持つ人や学習者が本会を活用できる場を作った。

- a) ウェブ教材『ドリル式エスペラント入門』 の活用を推進し、学習支援事業を継続した。
- b) 遠隔地からでも参加できるオンラインセミナーを2025年3月に開催した。 「エスペラント教材作り：半年完結型、動画で学ぶエスペラントまでの軌跡」千田俊太郎、受講者30人。

3.2.2 学力検定試験を、年3回実施した（2024年6月（京都）8人、同年11月（東京・倉敷）20人、2025年3月（東京・仙台・倉敷）20人。

3.2.3 第111回日本エスペラント大会は日韓共催のため、研究発表会ならびに文芸コンクールは実施しなかった。

3.3 八ヶ岳エスペラント館における事業

3.3.1 第23回エスペラント漬け合宿（NEK）（9月参加者9人）第3回ホリゾント塾（10月参加者7人）を実施した。延べ宿泊数は333人。

3.3.2 感染症対策を実施して、安心・安全な利用ができるようにした。

4 エスペラント雑誌の刊行事業（担当：編集部）

4.1 基本方針と成果

4.1.1 雑誌『エスペラント／La Revuo Orienta』（RO誌）を事業計画どおりの方針で発行した。

4.2 雑誌刊行事業

4.2.1 印刷版（A5判）および電子版・音声版・点字版を毎月発行した。ただし8・9月号は合併号とした。

4.2.2 編集体制の方針に沿って取り組んだ。

a) SNS [note.com](#) 「エスペラント情報誌『La Revuo Orienta』編集部」を活用し、過去にRO誌に掲載した記事14件を一般に公開した。

b) 編集会議を年11回オンラインで実施した。拡大編集会議を1回（2025年1月11日）実施し、雑誌についての意見を交換した。

4.2.3 RO誌の内容は事業計画どおりとした。

4.2.4 他部門と連携し、2025年1月号特集（第3回日韓共同開催エスペラント大会）を発行した。

4.2.5 RO誌の表紙の新しいロゴについて、2024年6月号で募集し、2025年1月号で入賞作品を発表した。

5 図書等刊行・頒布事業（担当：出版部）

5.1 基本方針と成果

5.1.1 エスペラントの学習、エスペラントに関する文化の発展、エスペラント普及に資する図書出版活動を行なった。

5.1.2 内外のエスペラント図書を仕入れて販売した。また国外で発行されたエスペラント雑誌購読を取り次いだ。

5.2 図書刊行事業

5.2.1 出版物として下記を検討し、一部について発刊を決定して制作を進めた。

a) 『ドリル式エスペラント入門』の改訂版は、オンデマンド印刷での販売と決定し、対応方法の検討を進めた。

b) 教科書・教材の出版について、複数の提案があり、検討を行なった。

c) 日本大会・RO誌との連動した出版企画は具体化しなかった。

d) 学力検定試験問題集については、紙書籍か、Web公開かの選択肢が出され、継続検討課題となった。

e) 以下の書籍の発刊について、検討と制作準備を進めた。

- ・スマホ用電子書籍『エスペラント日本語辞典』
- ・『オノマトペ辞典』
- ・『Kwaidan』

5.2.2 今後の出版物の準備、計画について、以下のように取り組んだ。

a) 『日本語エスペラント辞典』（宮本正男編）の全面改訂作業を新日本語エスペラント辞典編集委員会のもと進めた。刊行時期の明確化については、次年度の継続課題となった。

b) エスペラントや関連文化に興味がある作家・識者・出版社などに向けたイベント及び交流会については、具体的な企画には至らなかった。

5.2.3 本会以外でのエスペラントに関する電子的教材等の出版への支援の仕組みづくりの検討については、具体的な進展がなかった。

5.2.4 出版在庫について出版後30年後の処分を目安として管理と対処を行なった。

5.3 図書頒布事業

5.3.1 エスペラント書籍の販売、取り次ぎを行なった。

5.3.2 読書会の推奨、ウェブを活用した宣伝のほか、「文学フリマ東京38」（5月19日開催）、同39（12月1日開催）への出店を通して、エスペラントの広報とエスペラント図書販売拡大に努めた。

5.3.3 『日本エスペラント協会在庫図書カタログ』の新版は2025年度版として公開することに決定し、改訂作業を進めた。

5.3.4 ネット販売などの新しい販売手段について可能性を検討した。

5.3.5 重複した寄贈本について、総務部と協力しながらできるだけ読みたい人に渡るよう販売を行なった。

6 エスペラント大会主催事業（担当：大会組織部）

6.1 基本方針と成果

6.1.1 2024年の第111回日本エスペラント大会を、第3回日韓共同開催エスペラント大会として開催した。

6.1.2 2025年の第112回日本エスペラント大会を、第11回アジア-オセアニア エスペラント大会との合同開催として、開催準備を始めた。

6.1.3 2026年以降の大会の開催地について検討を進めた。

6.2 日本エスペラント大会主催事業

6.2.1 第111回日本エスペラント大会を、第3回日韓共同開催エスペラント大会として、下記の通り開催した。

- a) 開催日：2024年10月4、5、6日（金・土・日）
- b) 会場：大韓民国・全州教育大学校（全北特別自治道全州市）
- c) 共同開催団体：韓国エスペラント協会
- d) 大会テーマ：“Nova tendenco de kulturaj mondoj en Japanio kaj Koreio 日本と韓国における文化の新しい動向”
- e) 参加者：登録参加者269人（日本から78人）
- f) 準備：韓国エスペラント協会と日本エスペラント協会のそれぞれが実行委員会を組織し、大会運営全般や主要番組の企画は韓国側が中心になって進めた。それぞれオンラインで定期的に会合を持ったほか、月1回のペースで合同会議を行って調整を図った。
- h) 大会参加者の半数以上は韓国からで、日本からの参加者数は必ずしも多くはなかつたが、両国以外にアジアやヨーロッパなど世界各国からの参加があり、これまでになく国際的な雰囲気であった。工夫された多くの番組もあり、参加者にとって充実した体験ができた大会になった。

6.2.2 第112回日本エスペラント大会を、第11回アジア-オセアニア エスペラント大会との合同大会として開催することを決定した。

- a) 開催日：2025年9月20、21、22日（土・日・月）
- b) 会場：岡山国際交流センター
- c) 協力団体：岡山エスペラント会
- d) 準備：JEI幹部と岡山エスペラント会の代表で実行委員会を組織し、2024年11月よりオンラインで実行委員会の定期的開催を始めた。特に、懇親会、大会後遠足、宿泊などの企画については、岡山エスペラント会のメンバーが中心に準備を進めている。

6.2.3 第113回日本エスペラント大会は、3年ぶりの単独開催の大会として、千葉県内の開催が提案された。

7 その他事業及び法人の管理（担当：総務部、財務部、ウェブ管理部）

7.1 基本方針と成果

- 7.1.1 本会のエスペラント事業の核となる会員の活動を支援し、各事業部門とも連携して、事業が円滑に行われるよう支援した。
- 7.1.2 本会が保有する図書・視聴覚資料等の保存について、資料のデータベース作成作業を再開し、デジタル化を含めた方策の検討を継続した。
- 7.1.3 今後起こり得る様々な状況に備え、本会の管理・運営方法の見直しをして改善を進めた。特に、新任の役員等に対しては運営上のルールや方針を記したマニュアルを整備し、支援した。

7.2 総務部担当事項

- 7.2.1 総務部の職務（庶務、会員管理、エスペラント会館管理活用、役員支援など）を事務局及び関連委員会（選挙管理委員会、小坂賞委員会）の協力を得て、着実に実行した。
- 7.2.2 事務局の課題には、財務部とともに事務局会議を定期的に開き対応した。
- 7.2.3 図書館整備事業のうち、データベース作成作業を再開し、図書館の整理作業も継続して行なった。
- 7.2.4 図書販売促進のため、行事を利用した機会の他、出版部との協力関係、ウェブの活用を強めた。効率的な仕入、多様なニーズに応えられる販売方法の検討も継続して行なった。
- 7.2.5 エスペラント会館5階倉庫にある出版在庫（委託販売品も含む）については、出版部と協力して、在庫の適正化と、コンテンツの電子化を含めた維持・拡充を行なった。
- 7.2.6 エスペラント会館検討委員会の提言を受け、エスペラント会館の未来像を明確化していくよう論議を重ねた。エスペラント会館基金の寄付募集の呼びかけを多方面に積極的に行なった。
- 7.2.7 本会事業の継承のため、および役員や関係者による適切なアクセスができるよう電子情報保管庫の整備は継続して行なった。

7.2.8 緊急時対応ガイドラインについては、事務局員、理事、監事、協議員、評議員、顧問で共有することを確認し、データ類の安全な管理については引き続き対応策を協議した。

7.3 財務部担当事項

7.3.1 公益目的支出計画および長期予算計画と整合を取りつつ、中長期的な視野の下に堅実な収支運営に努めた。

7.4 ウェブ管理部担当事項

7.4.1 本会ウェブサイトが、本会事業の広報はもとより、広く利用者にエスペラントに関する有用な情報を提供できるよう、維持管理を行なった。また、トップページで主要情報（検定試験のお知らせなど）を目立たせる、点字ファイル保管庫をさらに充実させるなど、本会ウェブサイトの利便性向上につながる施策を行なった。

7.4.2 本会のSNS（X、Facebook、Instagram、YouTube等）によるエスペラント広報活動を更に活性化するため、主に技術的な面で支援を行なった。

7.4.3 「行事」ページに行事カレンダー（Googleカレンダー利用）を新しく設置し、RO誌編集部との協力で今後のエスペラント行事日程の発信を開始した。

7.4.4 会員ページ（本会会員がパスワード付でアクセスするページ）で、会員向けの情報を隨時掲載するなどの運用管理を行なった。

7.4.5 本会に入会する魅力を増すためには、どのようにインターネットを活用すべきか、議論・検討を進めた。

7.4.6 『ドリル式エスペラント入門』ウェブサイト（従来は個人所有のサーバーで運用）を本会のサーバーに移転した。それに伴い、担当チームへの技術面での支援活動を引き継いだ。

7.4.7 将來のJEIウェブサイトリニューアルを視野に入れつつ、現ウェブサイトで可能な範囲内のサイト構成・デザイン・掲載内容などの見直し・改善を進めた。

7.4.8 その他、本会の情報システムを担う部門として、各部局や委員会等の活動に対して、主に技術面での支援を行なった。

I 庶務事項

1 会議の開催

評議員会: 6月16日

理事会: 4月18日（臨時）、5月26日、6月16日、3月16日

業務執行理事会: 7月11日（臨時）、9月1日、11月7日（臨時）、11月20日（臨時）、1
2月24日（臨時）、1月26日、2月15日（臨時）、3月7日（臨時）

副理事長会: 4月11日

監査: 5月25日

協議員会: 5月26日、1月26日

会員総会: 実施なし

2 会員

855（2025年初、個人会員808、団体会員47）

3 役員・職員等の人事

評議員: 田井久之、寺島俊穂が重任(6月16日から 任期4年)。石川智恵子、後藤みわ
こ、柴山純一が就任(6月16日から 任期4年)。伊藤哲司、犬丸文雄、重藤知夫が退任
(6月16日)。

代表理事: 北川郁子が重任（6月16日から 任期2年）。

副理事長: 西永篤史、堀田裕彦、森川和徳が重任（6月16日から 任期2年）。

理事: 北川郁子、 笥沼一弘、 南波文晴、 西永篤史、 福田 誠、 堀田裕彦、 森川和徳が重
任（6月16日から 任期2年）。臼井裕之、 角谷英則、 野口達也が就任（6月16日から 任
期2年）。川良日郎、 木谷奉子、 鈴木恵一朗が退任（6月16日）。

監事: 村尾健司が重任（6月16日から 任期2年）。鈴木 恵一朗が就任（6月16日から 任
期2年）。北川昭二が退任（6月16日）。

職員: 天野弥生を非常勤職員として採用（9月3日）。

（以上）

事業報告の附属明細書

事業報告に事業の詳細を記載しているため、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に定める「事業報告の内容を補足する重要な事項」がないので、附属明細書の記載事項はありません。

以上